

〔第3回研究大会報告要旨〕

日本海学会第3回研究大会の概要

富野 暉一郎

(第3回研究大会事務局・島根大学法文学部)

〈研究大会全体の概要〉

環日本海学会第3回研究大会は1997年9月19日から3日間、島根県松江市（基調講演及び国際シンポジウム）・鳥取県米子市（学会分科会）及び鳥取県境港市（エクスカージョン）を会場に開催された。

今回の研究大会は初めての試みとして鳥取県と島根県の両県の会員が事務局の中核となり、両県の学会・大学・自治体及び研究機関が国際シンポジウムの実行委員会を構成して実施された。事務局の実態としては、鳥取県側は(財)とっとり政策総合研究センター（とっとり総研）、島根県側は島根大学所属の会員が国際シンポジウム関連事務を担当し、学会事務関係はそれと並行する形で、とっとり総研と島根大学環日本海地域研究委員会が処理する形であった。

研究大会の企画にあたって、事務局としては環日本海研究の今後の方向を検討する上で

- ①環日本問題を世界の自治体国際活動と関連させて戦略的に検討するきっかけをつくる
- ②環日本海地域を多様な視点で捉え総合的な研究への指向をさらに加速させる

の2点が現時点では重要であるという認識の下に、どちらかといえば、議論の深まりよりも多様な議論を幅広く提起することに重点をおいた。

その結果、基調報告では、

- ①国際自治体連合（IULA）事務総長のD. Horgan氏による「地方政府による国際ネットワークの現状と可能性」
- ②東西センター副総裁の趙利済氏による「北東アジア経済件の将来への展望」

また、特別報告で

①吉林大学東北アジア研究院院長の王勝今氏の「北朝鮮の経済発展及び対外経済政策の転換」がとりあげられ、続いて開催された国際シンポジウムでは90年代以降欧州において顕著になった自治体国際ネットワークと環日本問題との関係が一つの焦点として議論された。

次に4つ設定された分科会では

- ①環日本海地域における地域間国際交流・協力の現状と展望
- ②日本海における環境管理の問題と課題（日本海における危機管理の在り方）
- ③持続可能な地域開発と資源エネルギーにおける国際協力
- ④日本海沿岸における社会動態

112 第3回研究大会報告要旨

をテーマに多彩な議論が展開された。

以上のように、過去2回の研究大会とは異なる会議の運営やテーマの設定であった上に交通事情が悪いために、事務局としては全国からの会員参加に若干不安を感じていたところ、シンポジウムは約300名（うち外国人39名）また分科会は約130名の参加を得て相当の成果をあげることができた。

多彩な報告者による多様な議論が展開された今回の研究大会は、議論の幅が広いだけに討論における論点の深まりを期待しにくい面があったことは否めない。環日本海学会がどこまでその学際的領域に対応した研究体制を構築するべきかは、学会自身の持つ力量とのバランスを考慮しつつ会員間の合意が図られるべきであろうが、学会が幅広い研究者の関心を引き付け、現実の課題に有効な方向づけができる水準を獲得するするためには、今後も多少冒険ではあっても可能な限り限界を広げる努力を重ねることが好ましいのではないだろうか。

今回の研究大会を終えて、求心力に若干欠ける構成をあえて選択した事務局として、それを許容して下さった皆様のご理解とご協力に感謝したい。なお、本研究大会の基調講演及び国際シンポジウムは、環日本海学会の負担金以外に、島根県・松江市の補助金と（財）とっとり総研の負担金及び山陰合同銀行・中国電力・鳥取銀行・鳥取ガス各社の寄付金を受けたことを付記しておく。

目 次

〔論 文〕

朝鮮半島の経済状況と南北間交流の展望

尹 明憲（北九州大学） 1

環バルト海協力における環境問題－EU・国家・地方自治体

大島 美穂（津田塾大学） 15

欧州における下位地域協力

－チェコ西部におけるユーロリージョンの活動を中心に－

高橋 和（山形大学） 28

〔投 稿〕

変革期の中国朝鮮族－経済概況と民族関係

鄭 雅英（大阪市立大学大学院） 45

北東アジア経済協力の政治学

－相互依存論・ネオリベラル制度論・覇権安定論－

中戸 祐夫（立命館大学大学院） 63

〔研究ノート〕

延辺を舞台とする朝鮮民族のトランスナショナルな教育・学術交流

宮島 美花（早稲田大学大学院） 85

環日本海経済圏：回顧と展望

張 忠任（岡山大学大学院） 96

〔第3回研究大会報告要旨〕

第3回研究大会の概要

富野暉一郎（大会事務局・島根大学） 111

国際シンポジウム：自治体国際ネットワークと環日本海圏（アジアと欧州）

基調講演

International Cross-border Networking of Local Governments: Its Trends and Possibilities

Drew Horgan (Secretary General IURA)113

北東アジア経済圏の将来への展望

趙 利済 (東西センター副総裁)118

特別講演

北朝鮮の経済発展および対外経済政策の転換

王 勝今 (吉林大学東北アジア研究院)121

国際シンポジウム報告

図們江地域の開発と北東アジア諸国間の経済協力

朱 顕平 (琿春市図們江国際開発研究所)123

環黄海圏における自治体国際交流・協力—韓・日・中の環黄海圏サミットを中心に—

朴 明欽 (釜山発展研究院)125

NEAR Assosiation: Problems and Possibilities of Development. The attempt of the systematic approach

Anatoly V SOLNTSEV (President of the Preparatory Comittee of the RJRA)
.....126

ユーロリージョンの試み：チェコを中心に

高橋 和 (山形大学)128

第1分科会：環日本海地域における地域間国際交流・協力の現状と展望

北東アジア地域間交流のフレームワーク

中野 有 (とっとり政策総合研究センター)130

環黄渤海経済圏経済合作的現状与展望

張 宝仁 (吉林大学東北アジア研究院)131

朝鮮半島と「環日本海経済圏」—韓国の北方政策と北朝鮮の経済開放政策を中心に—

李 鐘元 (名古屋大学)132

環バルト海協力—環境から始まる地域協力

大島 美穂 (津田塾大学)133

北東アジア自治体連合と共同事業の取り組み

山根 泉 (島根県総務部国際課)134

第2分科会：日本海における環境管理の問題と課題—日本海における危機管理のあり方

ナホトカ号重油流出事故における海上対策と処理について

坂場 正保（海上保安庁海上防災課）137

ナホトカ号重油流出事故対策の分析：沿岸域管理の立場から

敷田 麻実（石川県水産課）139

島根県における酸性雨の現状と国際共同研究への取り組み

中尾 允・山口 幸祐（島根県衛生公害研究所）141

環日本海地域における地震活動

石川 有三（気象研地震火山研究部）142

日本海地域における核汚染問題

梅林 宏道（Pacific Campaign for Disarmament and Security 国際事務局）
.....143

第3分科会：持続可能な地域開発と資源エネルギー問題における国際協力

環日本海地域における森林資源

北尾 邦伸（島根大学）145

日本海における水産資源

増田 紳哉（島根県水産試験場）146

氷温保存技術

山根 昭彦（㈱氷温研究所）147

雪氷寒冷地における雪氷利用の事例報告

鈴木 哲（元新潟大学）148

トランスアジア天然ガスパイプライン構想

菅原 章文（㈱三菱総合研究所）149

第4分科会：日本海沿岸地域における社会動態

ロシア（とくに極東）の信用能力向上のために

恩田 久雄（兵庫大学）151

北東アジア地域における悪循環構造からの共同的脱却

龍 世祥（金沢大学）152

中国延辺の環境と朝鮮族の生活文化の変化

櫛谷 圭司（新潟大学）153

| | |
|--|-----|
| 北東アジアにおける国際観光交流の現状と展望—中日韓の国際観光交流を中心にして— 梁 春香（新潟産業大学） | 154 |
| 山陰地域と中国東北部との民間経済文化交流の展望 盛山 正義（株山陰経済経営研究所） | 155 |
| 函館校はウラジオシトクと函館市の文化交流の一例 ネザムトジノフ・ヴィクトル（ロシア極東国立総合大学函館校） | 157 |
| 環日本海学会会則 | 158 |
| 『環日本海研究』編集要綱 | 160 |
| 『環日本海研究』執筆要綱 | 162 |
| 役員・理事会 | 164 |
| 編集委員会 | 165 |
| 編集後記 | 165 |